

ぶ機会になりました。

さて、今回は災害ボランティアについて考えてみたいと思います。

今回の地震のニュースで、「社会福祉協議会」「災害ボランティアセンター」という言葉を多く耳にしたと思います。

まず、この2つについてお伝えします。

熊本地震 ボランティア活動



社会福祉協議会って？

民間の社会福祉活動を推進している組織（社会福祉法人）で、全国・都道府県・市区町村ごとになります（略して、「社協（しゃきょう）」と呼ばれています）。各

NPO・ボランティア団体をサポートしている「あすみん事業所」では、今回の熊本地震で支援物資の取りまとめなど様々な活動をサポートしてきました。

その活動の一つに「福岡市災害ボランティアバス」の運行があります。支援地域に直行して迅速・効率的な活動を行うなど、ボランティアに関しても、被災地に負担をかけない「自己完結型支援」にチャレンジするというものです。

福岡での有事に備えて、ボランティアを地域で受け入れる環境・知恵などを学

災害ボランティアセンターとは？

災害時に設置される被災地での防災ボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。

近年では、被害の大きな災害に見舞われたほとんどの被災地に立ち上げられ運営されています。特に被害が大きい地区では「サテライト」と呼ばれる小分けした拠点もあります。

災害ボランティアセンターの活動内容

【被災地のニーズの把握】

家の片付け、避難所でのお手伝いなど、被災地の暮らしのニーズを収集します。

地域の実情をご存じのリーダーの人たちなどを通じてニーズの収集を行なうほかチラシを配布したり、直接要望を聞いて回ります。

【ボランティアの受け入れ】

災害ボランティアセンターを立ち上げた場所を、被災地内外に情報発信し、活動を希望するボランティアの受付を行います。

ボランティア活動を希望する人は、まずは災害ボランティアセンターを訪ね、状況把握や活動の準備をすること

になります。
・被災地外から来るボランティアの受け入れのコーディネートを行います。

【人員調整・資機材の貸し出し】

被災された人たちからのニーズに合わせて、必要なボランティアの人員など支援活動に道具が必要な場合、それらを準備して貸し出します。

【活動の実施】

要望にあわせて、ボランティアが家屋や避難所などで活動をします。

【報告・振り返り】

活動結果、気がついたこと、住民からの要望などを報告し、その後の活動の改善すべきことがあれば、センターを運営する人たちで話し合って、対応を考えます。



ボランティアの心得 10 か条

災害ボランティアセンターにおける活動の流れ

①ボランティア受付



センターに到着したら受付票の記入と、名札の作成、ボランティア活動保険未加入の方は保険に加入します。

④資材機の貸出・送迎



必要な物資や機材等の貸出を行います。必要に応じてボランティアを送迎します。

⑤救援活動



被災者に「寄りそう」という気持ちを大切にしながら、福祉救援活動を行います。

②オリエンテーション



スタッフから活動上の留意事項等の説明を受けます。

③ニーズとのマッチングとグルーピング



被災者からの依頼内容の説明を聞き、参加したい活動に手を挙げて意思表示し、グループになります。そしてグループの中からリーダー決めを行います。

③伝達ボランティア

被災地や被災者の事を伝えること
で復興へと繋ぐ。

⑥活動報告



リーダーは活動状況、活動の継続有無などについてスタッフへ報告します。

△私達にできること

次のボランティア活動は一般的によく言われていますが、改めてお伝えします。

- ①災害ボランティア
- 被災地へ赴き支援を行う。

- ②観光ボランティア
- 観光することで被災地の経済支援を行う。

今回、CSR推進室職員が、「熊本市灾害ボランティアセンター」の活動拠点として熊本市東区に整備された「東区サテライト」へ出向き、ボランティアと被災者の支援依頼を調整し、全体をまとめる「コーディネート」について学んできました。

変化するニーズに対して、きめ細かく、かつスピーディーに応えるためには、臨機応変に対応する力量が求められます。

◇コーディネーターに求められるもの

依頼者としてだけではなく、人と繋がる、孤立化の防止など優しい気持ちで、被災者へ寄り添います。

熊本市民の心の拠り所である熊本城の復興には四十年という長い時間がかかると言われています。無理することなく長い復興への応援を続けたいものです。

熊本・大分の一日も早い復興を祈ります。

◇被災者の状況を把握する

ボランティアを通して被災者へ目と心を注ぎます。

元気なのか。
食事はとれているか。
睡眠はとれているか。
室内は住める状況か。
片づけはされているか。

熊本地震の際、東サテライトの責任者だった方の言葉です。

「たくさんのボランティアの方に熊本に足を運んでもらい嬉しい。一方で一番の不安は、人々から熊本地震が忘れられること。」

大人であれ、子供であれ恐怖や不安、怒りや無力感など、この震災で心に抱いた沢山のネガティブな思いを表出するところが「心のケア」につながります。被災者の言葉に耳を傾け、その思いに寄り添います。

『できるときに
できることを』

復興には四十年という長い時間がかかると言われています。無理することなく長い復興への応援を続けたいものです。